

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2024年度 助成者)

作成日 2024年8月12日

氏名 (フリガナ)	高木 政志 (タカギ マサシ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2024年8月5日 (月) ~ 8月10日 (土)
大学名	順天堂大学
学年	5年

この度は公益財団法人日米医学医療交流財団様より格別なご高配を賜り、私、高木政志を2024年度医学部夏期集中医学英語研修に参加させていただきましたこと、この場をお借りいたしまして厚く感謝御礼申し上げます。

まず貴財団顧問でございます小玉正智先生にはご寄付賜りました。参加させていただきました貴プログラム作成責任者でございます小林恵一先生には貴プログラムで最も大切な「Case presentation」について深く学び、先生の多大なるご支援の下、アメリカの医学医療について学ぶことができました。同時に貴プログラムのコーディネーターであり Hawaii Tokai International College (HTIC) の Kuriyama Mika 様と Cody 様には全ての過程を案内してくださり、円滑にかつ臨機応変に貴プログラムを進行することができました。そして、貴プログラムの根幹を学ぶ午前中の「Case presentation」の講義や実習では Kathryn Shon 先生にご指導ご鞭撻いただきました。さらに貴プログラムの午後にはハワイ大学医学部 John A. Burns School of Medicine (JABSOM) で学びましたが、そこではオリエンテーションしてくださった Teresa Schiff 先生、さらに特別講演してくださった町淳二先生、Ogihara Makoto 先生、Tsuruta Motohisa 先生、Sian Yik Lim 先生、Robert V. Jao 先生には大変貴重なお話を伺うことができ、貴プログラムを通して先生方と繋がることができました。そして JABSOM の医学部 1, 2 年生の学生とも関わることができ、繋がりをもつことができました。最後に貴プログラムの全過程にご同行いただきました東海大学医学部の落合成紀先生とその他の先生方、そして神戸大学医学部の小林成美先生にはご指導ご鞭撻いただきました。以上、貴プログラムを修了するにあたりご指導ご支援いただきました全ての関係者の方々に改めて深く感謝申し上げます。

以上の多大なるご支援の下、貴プログラムで学びましたことを簡潔にご報告申し上げます。多くのことを学びましたが、特に大きく3つのことを学んだと感じます。1つ目は、Case Presentation についてです。

「このプログラムで学ぶことはたった1つ、Case Presentation です。これに集中してください。」と小林先生がおっしゃられていた通り、5日間集中して学びました。まず Problem Based Learning (PBL) で臨床推論の仕方やディスカッションをしました。これをもとに実際に Patient History Taking の仕方を学び実践し、その症例をプロフェッショナルに Presentation するという、一連の流れに沿って深くその方法を学び、実際に仲間や先生方と練習しました。Case Presentation は私にとってはここまでしっかり練習したのは初めてでしたので、わからない医学英語も多く、かなり難儀しました。今後も学び続ける必要性を感じました。2つ目は、アメリカで働くために必要なことについてです。JABSOM の学生とお話する機会があり、現地の医学部の授業やレジデンシープログラム等について教えていただきました。また、JABSOM で多くの特別講演を拝聴いたしましたが、そこでアメリカのレジデンシーやフェローシップについて深く学び、それらをパスするために必要な考え方や準備の仕方について視野を広げることができました。特に小林先生、町先生、Tsuruta 先生、Sian 先生、Robert 先生、野木先生、近藤先生に私の希望する心臓血管外科になるためにはという観点で個人的に教えていただくことができ、大変参考になりましたし、先生方と関係をもてたことは今後重要であると感じます。最後3つ目は、USMLE の勉強への良い刺激を得ることができたことです。今回の参加者には同じく将来アメリカで働きたい同期が多く、USMLE の勉強について共有することができたり、今後の勉強への刺激になりました。大変な時もあると思いますが、貴プログラムを経て繋がった仲間と共に切磋琢磨し、まず目の前の目標である USMLE 合格に向けて精進する強い思いを得ることができました。